

令和6年度 中越学園事業報告

1. 法人の概要

(1) 基本情報

①法人の名称 学校法人中越学園

②主たる事務所 住 所：新潟県長岡市御山町 80 番地 8

T E L：0258-39-1610 F A X：0258-35-1157

U R L：<https://www.nagaokauniv.ac.jp/guide/chuetsu-gakuen/>

(2) 設置する学校・学部・学科等

長岡大学 経済経営学部 経済経営学科

中越高等学校 全日制 普通科

(3) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(各年度5月1日現在)

学 校 名	令和6年度				令和7年度			
	入学定員	入学者数	収容定員	収容現員	入学定員	入学者数	収容定員	収容現員
長岡大学	125	83	475	413	125	96	500	418
中越高等学校	320	353	960	954	320	331	960	1,005
計	445	436	1,435	1,367	445	427	1,460	1,423

※令和4年度入学定員100名→125名へ変更。令和6年度収容定員は経過期間中の人数

(4) 収容定員充足率

(各年度5月1日現在)

学校名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
長岡大学	115.8%	107.1%	99.3%	86.9%	83.6%
中越高等学校	95.7%	87.5%	94.8%	99.4%	104.7%

※長岡大学収容定員：令和3年度400名、令和4年度425名、令和5年度450名、令和6年度475名、令和7年度500名

※中越高等学校収容定員：960名

(5) 役員の概要

理事定員：10名、監事定員：2名

(令和7年5月1日現在)

役 職	氏 名	就 任 年 月 日	常勤／非常勤	現 職
理事長	村山 光博	令和4年4月1日	常 勤	長岡大学 学長
理 事	萩野 俊哉	令和4年4月1日	常 勤	中越高等学校 校長
理 事	石川 英樹	令和6年6月1日	常 勤	長岡大学 副学長
理 事	鎌田 積 (外)	令和6年4月1日	非常勤	(学)都築学園 神戸医療未来大学 学長
理 事	小島 孝之 (外)	令和6年4月1日	非常勤	(株)東亜 代表取締役社長
理 事	小川 浩司 (外)	令和5年6月1日	非常勤	(株)相互タクシー 代表取締役社長
理 事	佐竹 和行 (外)	令和3年4月1日	非常勤	(公社)中越防災安全推進機構 業務執行理事
理 事	大出 恭子 (外)	令和3年6月1日	非常勤	green philosophy 代表

理 事	鯉江 康正	令和5年6月1日	非常勤	元長岡大学副学長
理 事	若木 慈	令和5年6月1日	常 勤	中越高等学校 教頭
監 事	北村 敏雄	令和3年7月20日	非常勤	北村公認会計士事務所 所長
監 事	駒形 佳昭	令和5年6月1日	非常勤	岩塚製菓(株)内部監査室

※(外)は外部理事

(6) 評議員の概要

評議員定員：23 名

(令和7年5月1日現在)

氏 名	就 任 年 月 日	現 職
轡田 雅晴	令和5年4月1日	長岡大学 事務局長
萩野 俊哉	令和4年4月1日	中越高等学校 校長
牛腸 正	令和3年6月11日	元中越高等学校 教諭
上村 寛男	令和3年6月11日	中越高等学校卒業生評議員
小林 拓史	令和6年4月1日	(株)高助勤務
石川 貴也	令和6年9月11日	第四北越証券(株)勤務
村山 光博	令和4年4月1日	(学)中越学園 理事長、長岡大学 学長
佐竹 和行	令和3年4月1日	(公社)中越防災安全推進機構 業務執行理事
井木 豊	令和5年4月1日	(長岡大学保護者評議員)
佐藤 剛	令和6年4月1日	(長岡大学保護者評議員)
光野 和宏	令和5年4月1日	(中越高等学校保護者評議員)
渡辺 茂治	令和6年4月1日	(中越高等学校保護者評議員)
田中 渉	令和6年4月1日	(中越高等学校保護者評議員)
鯉江 康正	令和4年4月1日	(学)中越学園 理事、元長岡大学 副学長
鎌田 積	令和6年4月1日	(学)都築学園 神戸医療未来大学 学長
小川 浩司	令和5年6月1日	(株)相互タクシー 代表取締役社長
若木 慈	令和5年4月1日	中越高等学校 教頭
後藤 暁	令和5年6月1日	中越高等学校 教頭
中嶋 正詔	令和6年4月1日	中越高等学校 事務長
矢澤 和比呂	令和6年4月1日	日本アルコン(株)勤務
諸橋 陽一	令和6年4月1日	信越興業(株)代表取 締役
石川 英樹	令和6年4月1日	長岡大学 副学長
由本 直樹	令和6年6月1日	ミリオンパック(有)代表取締役

(7) 教職員の概要

(令和7年5月1日現在)

	本務教員数	本務職員数	兼務教員数	兼務職員数
法 人	0	1	0	0
長 岡 大 学	23	20	14	7
中越高等学校	67	6	11	2
計	90	27	25	9

(8) その他

役員賠償責任保険契約（令和 6 年度）の内容

【加入責任期間】 令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 4 月 1 日

【引受保険会社】 東京海上日動火災保険（株）

【被 保 険 者】 中越学園の理事・監事、評議員、執行役員、管理職従業員、社外派遣役員、退任役員

【支払限度額・免責金額】 保険期間中総支払限度額 300,000 千円（免責金額 0 円）

【保 険 料】 112,000 円

(9) 学校法人の沿革

明治 38 年 12 月 女子師範学校入学の予備教育を目的とする私塾として開校、斎藤女学館と称する

大正 15 年 2 月 甲種実業学校として設置認可される

昭和 3 年 10 月 長岡高等家政女学校に改称する

19 年 3 月 財団法人長岡女子商業学校として設置認可され、校名を変更する

21 年 3 月 財団法人名と学校名を、長岡高等家政女学校に改称する

23 年 4 月 新制高等学校に転換し、長岡家政学園高等学校と称し、中学校を併設

26 年 2 月 財団法人を学校法人長岡家政学園に組織変更認可される

31 年 4 月 高等学校名を中越高等学校と改称し、男女共学とする

34 年 12 月 学校法人名を中越高等学校と改称する

42 年 6 月 長岡みどり幼稚園開校

46 年 3 月 法人名を中越学園に改称する

46 年 4 月 長岡女子短期大学(経済学科)開校

48 年 4 月 長岡短期大学に改称する

61 年 4 月 長岡短期大学経済学科を経済専攻と経営情報専攻とに専攻分離

平成 2 年 4 月 長岡短期大学経営情報学科開設

3 年 10 月 長岡短期大学地域研究センター設立

5 年 4 月 長岡短期大学専攻科開設

6 年 4 月 長岡短期大学生涯学習センター設立

8 年 3 月 中越高等学校商業科廃止

11 年 9 月 長岡みどり幼稚園廃止

13 年 4 月 長岡大学(産業経営学部産業経営学科)開校

14 年 7 月 長岡短期大学廃止

19 年 4 月 長岡大学(経済経営学部環境経済学科・人間経営学科)を設置
(産業経営学部を募集停止)

24 年 3 月 長岡大学産業経営学部産業経営学科廃止

26 年 4 月 長岡大学(経済経営学部経済経営学科)を設置
(経済経営学部環境経済学科・人間経営学科を募集停止)

長岡大学地域連携研究センター設立

(長岡大学地域研究センター及び長岡大学生涯学習センターを合併)

28 年 8 月 長岡大学収容定員増に係る学則変更認可

29 年 4 月 長岡大学収容定員変更 (320 名→400 名)

30 年 5 月 長岡大学経済経営学部人間経営学科廃止

令和 2 年 5 月 長岡大学経済経営学部環境経済学科廃止

4 年 4 月 長岡大学収容定員変更 (400 名→500 名)

2. 長岡大学に関する事業の概要

(1) 建学の精神

- ・幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進
- ・地域社会に貢献し得る人材の育成

(2) 教育目標

＜大学の使命・目的＞

長岡大学は、地域社会の中核となる、地域に貢献できる人材を育成することをその使命とする。地域社会で生活していくためには、まず社会的・職業的に自立することが重要であり、しかもそれは他の人に容易に代替が効く「部品」ではなく、個性と人格を持った存在として認められるようになることが望まれている。本学においては、職業人として自立するための各種技能と、社会人として求められる一般教養など基礎的能力を併せて教育し、地域社会の要請に応えようとするものである。

＜経済経営学部・学科の使命・目的＞

経済学と経営学の基礎およびその学際領域を実践的に学ぶことで、持続可能な地域社会の実現に向けて自ら行動することのできる社会人基礎力と職業人として通用する専門的知識・技能を涵養する。

＜教育ビジョン＞

ビジネスを発展させる能力と人間力を鍛えるとともに、「毎日の大学生活で充実感を、能力アップを確かめて達成感を、卒業のとき4年間を振り返って満足感を」実感させることを目指す。

(3) 長岡大学“三つの方針”および“学修成果と教育成果の点検・評価に関する方針”

(3-1) 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

長岡大学（以下、本学）では、建学の精神を踏まえ、次に掲げる能力を備えて地域社会の発展に貢献できる自立した人材を育成するものとし、本学学則に定める卒業要件に必要な年数以上在学し且つ単位を修得した学生に対し、学士の学位を授与します。

1 地域社会に貢献する姿勢

地域社会の実情を理解し、地域社会のために主体的に行動することができる。

2 職業人として通用する能力

企業や団体等の組織において職業人として必要とされる基本的な知識や能力を身につけ、行動することができる。

3 専門的知識・技能を活用する能力

常に自身の専門的知識・技能を高めることに取り組み、実際の場面に応じてそれらを活用することができる。

4 コミュニケーション能力

他者の意見や考え方を受け止め、理解するとともに、自分の意見や考え方をわかりやすく他者に伝えることができる。

5 情報収集・分析力

課題解決に向けた効果的な情報収集ができ、得られた情報の定性分析や定量分析を行うことができる。

(3-2) 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる知識・技能等を修得させるために、教養科目、ゼミナール科目、専門科目の各区分において必要とされる科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。

教育内容、教育方法、教育評価については以下のように方針を定めます。

教育内容

- 1) 教養科目をキャリア科目、語学科目、情報科目、一般教養科目、体育科目の5つの科目群に区分し、専門教育の基礎となる知識と幅広い職業人として求められる教養を学修します。キャリア科目では、産業と職業の基礎知識の学修、自らのキャリア形成の目標の明確化、社会人として修得しておくべき基本的なビジネスマナー等の理解を図ります。グローバル社会に対応する語学力を養成するために、英語の他に中国語、韓国語、日本語（留学生科目）を学びます。実務で必要とされる情報収集・分析力を高めるために、コンピュータを使った基礎的な文書作成能力や表計算処理能力及び数理・データサイエンス等の情報関連の基礎知識を修得します。
- 2) ゼミナール科目を各学年に必修として配置し、1年次では初年次教育として大学での学びの基本、数学的能力、コミュニケーション能力、2年次では文書作成能力、プレゼンテーション能力、課題発見能力等を養成します。3年次と4年次では、卒業論文または活動報告書を成果物とする専門分野のテーマに基づいた調査研究への取り組みを通して、課題解決力や社会人基礎力を養成します。
- 3) 専門科目として、「経済」、「経営」、「会計」、「マーケティング」、「情報」の5つの専門コース（履修モデル）に関連する専門的な知識・技能を学修します。学生が選択した2つの専門コースにおいて、資格取得に対応した授業科目を含むコース推奨科目を履修することで、希望する進路に向けた専門能力を養成します。
- 4) 地域の実態把握、現場・企業の体験、地域課題を扱う地域志向科目により、地域社会への理解を深め、実践力と社会人基礎力を養成します。

教育方法

- 1) 学生の主体的な学修環境を実現するために、アクティブ・ラーニング手法を各授業科目の目標や進め方に合わせて実施します。
- 2) 1年次から4年次までの各ゼミナール担当教員がアカデミック・アドバイザーとして、学生の修学や学生生活に関する相談や指導等を行います。
- 3) 実践的な学修を推進するために、地域志向科目では学外での体験学修や地域で活躍する専門家を招聘する外部講師授業を積極的に取り入れます。
- 4) 専門知識の定着と学習習慣の醸成を目的として、学生の計画的な資格取得を推奨し、資格に対応した授業を資格対応科目として実施します。

教育評価

- 1) 大卒者として社会で求められる汎用的な能力・態度・志向等の学生個人の能力・資質等を客観的に評価するためのテストを学年ごとに実施し、社会人基礎力の測定を行います。
- 2) 各学科で定めた卒業要件（必修・選択科目等）の修得状況と各科目のシラバスで定めた成績評価によって総合的に評価を行います。

(3-3) 入学者選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

本学は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カ

リキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人物を求めます。

- 1 高等学校までの履修内容のうち、国語を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身につけている人物
- 2 高等学校までの学校生活におけるグループ活動や委員会活動等で他者と協働して取り組んだ経験を持ち、その中での自分の役割と成果を分析して説明することができる人物
- 3 学習意欲旺盛で新しい課題に自ら挑戦できる人物
地域の課題解決に関心があり、大学で学ぶ知識や経験を地域社会で活かしたいという目的意識と、卒業後は地域をリードしたいという意欲を持つ人物を求める。

(3-4) アセスメント・ポリシー（学修成果と教育成果の点検・評価に関する方針）

本学は、以下の方法により学修成果と教育成果の点検・評価を行います。

長岡大学 アセスメント・ポリシー

検証区分	入学前（入学直後） アドミッション・ポリシーの理解と学修計画の検証	在学中 カリキュラム・ポリシーに沿った学修の進行と単位認定、進級判定の状況の検証	卒業時（卒業後） ディプロマ・ポリシーを満たす人材の育成と学生の成長に関する自己評価の状況を検証
機関レベル（大学全体）	・入学試験（口頭試問含む） ・入学希望理由書の記載内容 ・調査書の記載内容 ・入学時アンケート ・統一テスト（国語、数学、英語） ・PROG テスト ・リーディングスキルテスト	・GPA ・修得単位数 ・退学率、休学率、留年率 ・退学・休学・留年の理由 ・卒業論文、地域活性化プログラム活動報告書 ・PROG テスト ・社会人基礎力ルーブリック評価 ・学生満足度調査 ・リーディングスキルテスト	・学位授与数 ・就職率 ・資格取得・検定合格者数 ・学生満足度調査（4年生質問項目） ・卒業生アンケート ・就職先ヒアリング ・PROG テスト
教育課程レベル（学部）	・入学試験（口頭試問含む） ・入学希望理由書の記載内容 ・調査書の記載内容 ・入学時アンケート ・統一テスト（国語、数学、英語） ・PROG テスト ・リーディングスキルテスト	・GPA ・修得単位数 ・退学率、休学率、留年率 ・退学・休学・留年の理由 ・卒業論文、地域活性化プログラム活動報告書 ・PROG テスト ・社会人基礎力ルーブリック評価 ・学生満足度調査 ・リーディングスキルテスト	・学位授与数 ・就職率 ・資格取得・検定合格者数 ・学生満足度調査（4年生質問項目） ・卒業生アンケート ・就職先ヒアリング ・PROG テスト
科目レベル（授業科目）		・成績評価 ・資格取得による単位認定 ・授業評価アンケート	

(4) 中期計画に基づく令和6年度事業の進捗及び達成状況

第2期中期計画（令和4～10年度）に掲げる長岡大学の目指す将来像の達成を目指して、当該計画の3年目となる令和6年度においては、以下の項目について重点的に取り組んだ。

(4-1) カリキュラム・教学改革

① カリキュラムの継続的な点検と改善

- ・学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的として、「データサイエンス基礎」（教養科目：2単位）を1年次配当の必修科目として開講した。
- ・文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に申請し、8月に認定を受けた。

② 教育力の向上

- ・教育力の向上のため、FD（Faculty Development：教員の資質開発）に関する会議・研修を計画的に実施した（表1）。

表1 2024(令和6)年度 FD 開催実績

開催日	開催時間	内 容
4月24日(水)	17:30～18:00	「2023年度大学コンソーシアム京都第29回FDフォーラム」参加報告
6月19日(水)	17:45～18:30	生成AIを使用したデジタルテキスト作成支援ツールの紹介
8月22日(木)	14:30～17:00	前期末試験成績評価とルーブリックの点検
9月18日(水)	14:00～15:00	リーディングスキルテスト結果の分析
10月23日(水)	16:30～17:30	シラバス記載方法の説明
2月19日(水)	16:20～17:20	地域志向教育研究発表会
3月5日(水)	13:00～13:45	教授法のレベル向上のための研修

- ・開講したすべての授業科目において学期末に履修者への授業評価アンケートを実施し、集計結果を科目担当教員にフィードバックすることで授業改善を促した。
- ・本学の特徴的な教育プログラムである「学生による地域活性化プログラム」を推進し、当年度は10ゼミナールの学生157名が地域の課題をテーマに調査研究に取り組んだ。また、12月7日に一般公開で開催した「第18回 学生による地域活性化プログラム成果発表会」（ホテルニューオータニ長岡「NCホール」）において、各ゼミナールがその成果を発表した（表2）。

表2 2024(令和6)年度 学生による地域活性化プログラム 取組テーマ

No	ゼミナール	取組テーマ
1	坂井一貴ゼミ	キャンプ・アウトドアをキーワードにした地域活性化への取り組み
2	喬雪氷ゼミ	長岡市悠久山地区の活性化を考えよう ～人の集まる場所づくり～
3	百合岡雅博ゼミ	新潟のフードビジネスにチャレンジ
4	生島義英ゼミ	長岡市宮内・摂田屋地区への理解を深め、魅力を見出し、活動により地域活性化を図る
5	権五景ゼミ	十分杯の広報活動と動画で世界に新潟を発信！
6	栗井英大ゼミ	オープンファクトリーで長岡を活性化！
7	石川英樹ゼミ	栃尾地区活性化 ～トチオノアカリと域外との協働による地域ブランディング
8	李欣洙ゼミ	地域の小学校や民間教室と連動した情報教育の推進

9	広田秀樹ゼミ	グラスルーツグローバルゼーション ～地域国際交流を通じ平和を目指す～
10	深谷慎介ゼミ	レジデンシャル・カレッジ等を代表例とする「社会に開かれ共同性を重視した学習環境」についての実践と研究

③ 単位制度の実質化

- ・単位制度の実質化（1単位：標準45時間の学修時間）に向けて、学生の授業時間外の学修時間を確保するために、各授業において適切に課題を課す等の対応を行った。
- ・全授業科目のシラバス（授業計画）において学修の到達目標と評価基準をルーブリックにより明示することで、学生の主体的学びを促した。

④ 学生の学修意欲の向上

- ・アカデミック・アドバイザー制度の一環として、ゼミ担当教員と学生とのマンツーマン面談（半期につき2回以上）を通して、学生の学修意欲の向上を図った。
- ・中退防止の方策として、年間を通して出席状況調査に取り組み、欠席の多い学生には早期に連絡を取り、個別に指導を行う等の対応を行った。
- ・学生に資格検定試験の受験を促すとともに、受験対策講座を開講することで合格に向けた支援を行った（表3）。
- ・多くの学生が資格検定試験に挑戦し、合格を得た（表4）。

表3 2024(令和6)年度 資格検定試験対策講座 開講実績

対応資格検定試験	試験日	対策講座 開講日	延べ時間 (時間)	受講 人数
Word 文書処理技能認定試験 1級・2級	12/14 (土)	①12/3、②12/4、③12/6、④12/10、⑤12/11 17:00～19:00	10	3
Excel 表計算処理技能認定 試験 1級・2級	6/29 (土)	①6/18、②6/19、③6/21、④6/25、⑤6/26 17:00～19:00	10	8
	1/31 (金)	①1/21 10:40～12:10、②1/22 10:40～12:10、 ③1/28 14:40～16:10、④1/29 14:40～16:10	6	5
PowerPoint プレゼンテーション技能認定試験 上級	7/13 (土)	①7/2、②7/5、③7/9、④7/10、⑤7/12 16:30～18:30	10	6

表4 資格検定試験 受験者及び合格者数推移（2023～2024年度）

資格検定試験	2023(令和5)年度			2024(令和6)年度		
	受験者 数(人)	合格者 数(人)	合格率	受験者 数(人)	合格者 数(人)	合格率
Word 文書処理技能認定試験 1級	11	8	72.7%	8	7	87.5%
Word 文書処理技能認定試験 2級	72	50	69.4%	59	44	74.6%
Word 文書処理技能認定試験 3級	22	13	59.1%	15	9	60.0%
Excel 表計算処理技能認定試験 1級	13	10	76.9%	8	4	50.0%
Excel 表計算処理技能認定試験 2級	59	44	74.6%	65	44	67.7%
Excel 表計算処理技能認定試験 3級	11	8	72.7%	20	14	70.0%
PowerPoint プレゼンテーション技能認定試験 上級	26	25	96.2%	30	26	86.7%
IT パスポート試験	9	6	66.7%	3	2	66.7%
ドットコムマスターベーシック	20	14	70.0%	11	8	72.7%
マネジメント検定Ⅲ級（経営学検定初級）	12	5	41.7%	10	8	80.0%

日商簿記検定 2 級・ネット検定 2 級	20	6	30.0%	10	4	40.0%
日商簿記検定 3 級・ネット検定 3 級	42	9	21.4%	23	5	21.7%
リテールマーケティング（販売士）検定 1 級	—	—	—	—	—	—
リテールマーケティング（販売士）検定 2 級	9	7	77.8%	3	3	100.0%
リテールマーケティング（販売士）検定 3 級	13	9	69.2%	4	3	75.0%
ファイナンシャル・プランニング技能士 2 級	7	3	42.9%	1	1	100.0%
ファイナンシャル・プランニング技能士 3 級	9	5	55.6%	6	3	50.0%
福祉住環境コーディネーター 2 級	9	1	11.1%	—	—	—
福祉住環境コーディネーター 3 級	11	5	45.5%	37	18	48.6%

※受験者数・合格者数ともに大学に報告のあったものに限られるため、合格率は参考値。

⑤ 図書館の利用促進

- ・「図書館だより」を毎月発行し、各種特集、図書館の使い方講座、新着図書紹介、展示コーナーの紹介等、学生・教職員への定期的な情報発信を通して利用促進を図った。

⑥ 教育の ICT 化

- ・令和 4（2022）年度の入学者からノートパソコンの BYOD（Bring Your Own Device）を実施しており、1～3 年生の全員が個人所有のノートパソコンを持参して学ぶ状況となった。

（4-2）学生支援

① 課外活動を通じた学生の社会人基礎力の向上

- ・学友会及びサークル活動の活性化に向けた支援を行った（表 5）。1 年生や 2 年生を中心とした同好会が新たに 10 団体設立され、学内イベントの開催や参加等、活発な活動が展開された。

表 5 2024(令和 6)年度 サークル・同好会一覧

学友会	登録人数	文化系サークル	登録人数	同好会	登録人数
学友会執行部	39	軽音楽	39	英語	5
悠久祭実行委員会	45	茶道	6	珈琲・紅茶	8
運動系サークル	登録人数	写真	13	GAME	6
男子ソフトボール	8	TRPG	10	管楽器	5
バスケットボール	14	長岡大学レオクラブ	23	シェアスペース研究	6
バドミントン	35	麻雀	17	創作	10
バレーボール	57	簿記検定	25	トレーニング	5
フットサル	13	カードゲーム	6	日本経済新聞を読む会	5
				マーケティング	6
				野外	6
				ヨーガ	8

- ・年間を通してボランティア・ボード（ボランティア募集掲示板）等による学生へのボランティア関連情報の周知と応募受付を行った。

② 学生の自主的活動に対する支援

- ・2024(令和 6)年 9 月 21 日(土)～22 日(日)に悠久祭（大学祭）を開催し、盛況のうちに終了することができた。

- ・学生の自主的活動を支援するヒューマン・パワーアップ・プロジェクト（公募型人間力育成奨励金制度）に6件の事業を採択し、長岡大学後援会の協力を得て各事業の取り組みを支援した（表6）。

表6 2024(令和6)年度 ヒューマン・パワーアップ・プロジェクト採択事業

団体名	事業名	採択額
ヨーガ同好会	ヨガで健康づくり	49,000 円
茶道サークル	呈茶	46,614 円
茶道サークル	茶事	43,598 円
軽音楽サークル	佐渡軽音楽支援事業 J-PROJECT 主催ライブ出演	200,000 円
管楽器同好会	学内コンサート	200,000 円
マーケティング同好会	マーケティングを学び、商品開発に挑戦する	94,000 円

③ 奨学金制度による学生への経済的支援

- ・(独)日本学生支援機構奨学金制度の学生への周知と適切な貸与・給付手続きの支援を行った。
- ・成績が思わしくない奨学金受給者に対して、学長、学生委員長と学生課長が面談を行い、個別指導を通して学習への動機づけを行った。

④ 充実した大学生活の実現に向けた支援

- ・障がいのある学生の相談に対応し、個々の状況に応じた修学上の支援や配慮について全学的に取り組んだ。
- ・学生一人ひとりの人権を尊重し、ハラスメントを防止するために、新学期オリエンテーションにおいてハラスメントに関する学生への周知を図った。

(4-3) キャリア支援

① 就職及び進路について早期からの意識づけ

- ・学生の就職意識を高めるためにキャリア科目等における企業講師の招聘を計画的に実施した。
- ・企業見学バスツアーを計4回実施し、学生に業界研究の機会を提供した（表7）。

表7 2024(令和6)年度 企業見学バスツアーの概要

回数	日付	訪問先企業	参加者数
第1回	6月21日(金)	(株) SANKA、(株) 諸長、(株) スズキ自販新潟、 (株) 新潟県厚生事業協同公社	18名
第2回	6月27日(木)	久保誠電気興業(株)、(株) スミック、(株) マルタケ、 (株) 加賀田組	18名
第3回	7月18日(木)	遠藤商事(株)、燕市役所、新潟トヨタ自動車(株) 新潟総合警備保障(株)	14名
第4回	10月17日(木)	江部松商事(株)、北越工業(株)、(株) 大光銀行 リコージャパン(株) 長岡営業所	19名

- ・2025(令和7)年1月30日(木)～31日(金)、長岡グランドホテルにおいて約93社の企業の参加を得て本学主催の合同企業セミナーを開催し、地元企業に対する学生の理解を深めた。
- ・2024(令和6)年4月24日(水)、全学年を対象とした本学主催の「公務員業務説明会」を開催し、計109名の学生が参加した。当日は、公的機関11団体の人事担当者から各機関の業務内容についてご説明いただいた。

② 就職マッチングの徹底による就職後のミスマッチ防止

- ・就職支援室職員が年間を通して企業訪問を行い、詳細な求人情報を収集した。
- ・学生、就職支援室職員、ゼミ担当教員の三者で就職活動の状況を共有し、学生の就職活動を支援した。

③ 留学生の日本での就職を支援

- ・留学生の日本での就職を支援するため、留学生への就職関連情報の提供を行い、就職を希望する留学生3名全員が日本での就職を実現した。

④ 本学卒業生の入社後のフォローアップ

- ・本学の卒業生が就職した企業を就職支援室職員が適時訪問し、入社後のフォローアップを行った。また、やむを得ず離職した卒業生に対しては要望に応じて再就職支援（10件）を行った。

(4-4) 学生募集・広報

① 志願者数の増加

- ・延べ205回（前年度150回）の高校訪問を実施し、進路指導担当教員への情報提供を行った。
- ・進学説明会は高校内と会場形式を含め43件（前年度42件）に参加した。
- ・出前講座、分野別・系統別説明、小論文・面接指導等16件（前年度24件）に参加した。
- ・高校、中学校等の生徒による大学見学を28件（前年度34件）受け入れた。
- ・公式ホームページ、SNSを活用し、継続的に鮮度の高い情報発信に努めた。

② 入学定員の充足

- ・オープンキャンパス：7回（3/16、5/26、6/15、7/6、7/21、8/10、9/1）、進学相談会：2回（9/21、9/22）、入試対策講座5回（9/21、9/22、10/5、12/14、1/25）を計画通り実施し、参加者に本学の学びの特徴と魅力を伝えた。

③ 適切な入学者選抜の実施

- ・アドミッション・ポリシーに基づき、本学の入学者選抜方法の点検を行い、一部見直しを図った。
- ・次年度の入学者選抜試験について、志願者が受験しやすい実施日程案を検討した。

④ 留学生入試の実施方針の策定

- ・国際交流委員会と入学委員会の連携の下、留学生入試の試験日程等の実施方針を検討し、留学生入試（国外）については、モンゴル、中国、ベトナムで入学者選抜を実施した。

⑤ 文化講演会の開催

- ・本学主催の文化講演会「なぜ少子化は止められないのか」を開催し、約50名の参加者を得た。

長岡大学文化講演会 2024

日時：2024年10月18日（金）18:30～20:00

会場：ホテルニューオータニ長岡 NC ホール

演題：「なぜ少子化は止められないのか」

講師：藤波 匠氏（株式会社 日本総合研究所 上席主任研究員）

(4-5) 地域連携

① 地域志向研究の推進と地域への研究成果の還元

- ・当年度の地域志向研究として2件の研究課題を採択し、各教員による調査研究を支援した（表8）。
- ・上記の地域志向研究の研究成果は、2025（令和7）年2月19日（水）に本学で開催された「地域志向教育研究成果発表会」において報告が行われ、教職員間で共有した。

表 8 2024(令和6)年度 地域志向教育研究 採択課題

研究者	調査研究課題
米山 宗久 教授	地域福祉プラットフォーム創出のための基礎調査
村越 真紀 准教授	台湾からの訪日教育旅行受入に伴う学校訪問に関する調査

- ・前年度（2023 年度）に本学教員が取り組んだ地域志向研究の成果を地域に還元するため、2024(令和6)年 11 月 28 日（木）に米百俵プレイス ミライエ長岡を会場として「新潟の観光まちづくりを考える」のテーマで地域連携研究センターシンポジウムを開催した（表 9）。
- ・論文誌「地域連携研究」（11 月）を刊行し、学外に向けて教員の研究成果の発信を図った。

表 9 長岡大学地域連携研究センターシンポジウム 2024 概要

テーマ	新潟の観光まちづくりを考える
日 時	2024 年 11 月 28 日（木） 15：00～17：00
会 場	米百俵プレイス ミライエ長岡 ミライエステップ （長岡市大手通 2 丁目 3 番地 10）
対象者	一般市民 他
参加者	79 名（会場 49 名、オンライン 30 名）

② 関係諸機関との連携の推進

- ・ NaDeC（ナデック）構想に基づく市内 4 大学 1 高専と長岡市、長岡商工会議所との連携の下、「Matching HUB Nagaoka 2024」に参加した。
- ・ 長岡商工会議所、NPO 法人長岡産業活性化協会 NAZE 等の産業界との連携を行い、産業振興に協力した。

③ 地域活性化への貢献

- ・ 2019(令和元)年度から取り組んできた栃尾地域の活性化を目指した事業を引き続き展開した。
- ・ 秋葉中学校、刈谷田中学校、栃尾高等学校の生徒および、栃尾支所職員、栃尾地域に居住する 40 歳代以下の社会人等、計 27 名の参加を得て「栃尾若者ワークショップ」を開催し、世代の違う参加者が地域の魅力を語り合う場を設けた。

④ リカレント教育（社会人学び直し）の推進

- ・ 本学の専門性を生かした長岡大学公開講座をまちなかキャンパス長岡において全 6 講座開講し、延べ 180 名の受講者を得た（表 10）。

表 10 2024(令和6)年度 長岡大学公開講座 一覧

講 師	講座名	日 時	受講者数
権 五景 （教授）	韓流ドラマをより楽しむための基礎知識（全 5 回）	5月30日（木）～ 6月27日（木） 18：00～19：30	28 名
牧野 忠昌 （牧野家当主）	お殿様の履歴書（全 1 回）	6月22日（土） 10：00～11：30	105 名
深谷 慎介 （専任講師）	データサイエンス最初の一步（全 2 回）	7月11日（木）、 7月18日（木） 19：00～20：30	17 名

百合岡 雅博 (准教授)	目指せ、営業マスター！～押さえるべきポイントはココ！！～（全1回）	8月10日（土） 10：30～15：30	8 名
		10月8日（火） 13：00～17：00	7 名
中村 大輔 (准教授)	企業の決算書を読んでみよう（全5回）	9月26日（木） ～10月24日（木） 18：30～20：30	15 名

⑤ まちの駅としての施設開放

- ・「まちの駅 長岡大学」の機能として、トイレ、図書館等の施設の一部を一般に開放した。

（4-6）国際交流

① 優れた留学生の受入れ

- ・中国、モンゴル、ベトナムの国外入試を実施し、中国から4名、モンゴルから3名、ベトナムから1名、計8名の留学生（1年次：4名、2年次編入：3名、3年次1名）を受け入れた。また、国内からは2名（1年次：1名、2年次：1名）の留学生を受け入れた。

② 留学生の充実した大学生活に向けた支援

- ・留学生連絡会を開催し、留学生への定期的な情報提供と指導を行った。
- ・留学生の修得単位数及び出席状況を確認し、個別に指導や支援を行った。
- ・日本語能力試験の受験を促し、認定率向上のための支援を行った。

③ グローバル社会に向けた意識向上

- ・留学生が楽しめるようなイベントを学友会執行部で検討し、2025(令和7)年1月15日（水）に留学生向けのイベント「留学生茶会」が予定通り実施された。

（4-7）研究

① 外部研究資金獲得の促進

- ・全教員を対象として、科研費の応募に対する効果的な申請書類の作成に関する研修会を8月21日（水）に開催し、採択に向けた申請書のポイントについて確認した。
- ・2025(令和7)年度科研費の本学申請分について、採択された研究課題はなかった。
- ・外部研究資金の獲得を促進するために、年間を通じて企業や研究支援団体から寄せられる研究公募情報を総務課で適時に取りまとめ、教員へのメール配信により周知を図った。

② 研究倫理教育及びコンプライアンス教育の徹底

- ・不正のない研究環境を維持するため、8月21日（水）に外部講師による「研究倫理・コンプライアンス研修会」を開催した。
- ・研究倫理・コンプライアンスに対する研究者の意識を高める啓発活動を教授会（6月19日、2月19日）において実施した。

（4-8）業務運営

① 危機管理業務の強化

- ・本学の危機管理（基本・個別）マニュアルの点検と一部の改訂を実施し、改訂箇所について教職員への周知を図った。
- ・9月12日（木）に教職員による消防・防災訓練を実施した。

② 業務効率化の推進

- ・従来から取り組んできた5S（整理、整頓、清掃、清潔、習慣化）活動を当年度も事務局を中心

に計画的に実施した。

③ 業務の ICT 化

- ・クラウドを活用した教職員間の情報共有を進めており、当年度においては FD 部会の企画により 2025(令和7)年2月26日(水)に Microsoft Teams の活用についての研修会を開催した。

(4-9) 人材育成

① 教職員の資質・能力向上

- ・教職員の資質及び専門的能力の向上を図るため、SD (Staff Development : 教職員の職能開発) を計画的に実施した (表 11)。
- ・学長裁量経費を利用した教職員の自己啓発 (スキルアップ、資格取得など) に対する支援について、今年度は応募者がなかった。

表 11 2024(令和6)年度 SD 開催実績

開催日	開催時間	内容
4月24日(水)	16:30~18:00	令和5年度中期計画達成に向けた「行動実績」の発表
		令和6年度中期計画達成に向けた「行動計画」の発表
5月22日(水)	16:30~18:00	昨年度入試結果の分析と振り返り
6月19日(水)	16:30~17:00	令和5年度決算及び令和6年度予算説明会
	17:00~17:45	大学教育改革の基礎となる IR (大学自己分析) 一学生募集関連の基礎データの確立と分析データの共有方法についての検討一
7月17日(水)	16:30~18:00	ハラスメント防止講習会
8月21日(水)	13:00~13:30	研究倫理・コンプライアンス研修
	13:30~14:30	科研費申請説明会
	14:40~16:15	障がいのある学生への支援
8月22日(木)	9:30~12:00	学生募集に関する情報共有
	13:00~14:00	交通安全講習
9月12日(木)	9:30~10:30	消防・防災訓練
9月18日(水)	16:30~18:00	学生満足度調査の結果について
11月20日(水)	16:30~18:00	中期計画達成に向けた行動計画の中間報告
12月18日(水)	16:30~17:00	内部統制システムの基本方針について
3月5日(水)	13:00~13:45	京都 SD フォーラムの報告 (職員)
	15:00~16:30	卒業生アンケート・卒業生就職先意見聴取結果について

(4-10) 内部質保証・情報公開

① 自己点検・評価の実施

- ・中期計画に基づく年度ごとの事業計画に従って、各部署 (各委員会) が行動計画を定め、目標管理シートを利用して四半期ごとに進捗を確認した。
- ・各委員会から四半期ごとに提出される目標管理シートの進捗状況を大学評価室が点検・評価し、必要に応じて改善の指示を行った。
- ・年度ごとの事業計画及び達成状況をまとめた事業報告書を大学評価室が作成し、外部有識者で構成される「地(知)の拠点」事業推進協議会において評価・助言を受けた。

② 情報公開の推進

- ・本学公式ホームページに掲載する本学の基礎データを適切に更新するとともに、様々な取り組みに関する案内や報告を「新着情報」として積極的に発信することで情報公開を推進した。

③ IR (Institutional Research)※の推進

- ・前年度(2023年度)に実施した全学生を対象とする「学生満足度調査」の集計結果について、2024(令和6)年9月18日(水)開催のSD会議において教職員間で共有した。
- ・本学卒業生を対象とする「卒業生アンケート」および卒業生の就職先企業を対象とする「就職先ヒアリング」を行い、「学生基礎データ」に基づいた分析を行った。分析結果は、2025(令和7)年3月5日(水)開催のSD会議において教職員間で共有した。

※教育、研究、財務等に関する大学の活動についてのデータを収集・分析し、大学の意思決定を支援するための調査研究

(5) 入試に関する状況について

① 入学者数

- ・1年次では、入学定員125名に対して96名(日本人学生91名、留学生5名)の入学を許可した。
- ・2年次へ4名(留学生4名)、3年次へ1名(留学生1名)の編入学を許可した。
- ・県外からの日本人入学者は7名であった。

② 志願者数

- ・日本人の延べ志願者数は141名で、前年度162名に対して21名減少した。
- ・学校推薦型選抜入試(指定校、公募)の志願者は56名で、前年度43名に対して13名増加した。
- ・総合型選抜入試の志願者は9名で、前年度13名に対して4名減少した。
- ・一般選抜入試の志願者は22名で、前年度39名に対して17名減少した。
- ・大学入学共通テスト利用型の志願者は54名で、前年度67名に対して13名減少した。

③ 合格者の入学状況

- ・一般選抜入試と大学入学共通テスト利用型を合わせた合格者70名のうち入学者27名の割合は38.6%で、前年度(入学者28名/合格者93名)の30.1%に対して8.5ポイント増加した。

(6) 卒業生数、学位授与数と学生の活動に関する状況

① 卒業生数及び学位授与数 [名]

学科	2024(令和5)年9月卒業		2025(令和6)年3月卒業	
	卒業生数	学位授与数	卒業生数	学位授与数
経済経営	2	2	84	84

② 学位授与数(男女別・入学年度別内訳) [名]

入学年度	2019(令和元)年度		2020(平成2)年度		2021(令和3)年度	
学科	男	女	男	女	男	女
経済経営	1	—	1	—	68	13

学科	2022(令和4)年度 編入学		2023(令和5)年度 編入学	
	男	女	男	女
経済経営	—	1	—	2

③ 進学状況

2025(令和7)年3月卒業生

(大学院)	・北陸先端科学技術大学院大学	1名
	・事業創造大学院大学	1名
(専門学校)	・晴陵リハビリテーション学院	1名

(7) 就職の状況

- ・2024(令和6)年度卒業生の就職率は98.7%(就職者78名/就職希望者79名)となり、企業訪問による求人開拓や、企業と学生のマッチングを強みに高い就職率を維持することができた。
- ・留学生3名が日本国内(県外3名)で就職した。

【長岡大学就職率の年度別推移】

年度	2020 (令和2)	2021 (令和3)	2022 (令和4)	2023 (令和5)	2024 (令和6)
就職率	97.8 %	99.0 %	99.0 %	99.0 %	98.7 %

※就職率(就職者数 ÷ 就職希望者数 × 100)

【主な就職先】(順不同、[]内は人数)

建設業	卸売業	不動産業
株式会社加賀田組 [2] シントク株式会社 株式会社千代田設備 春木建設株式会社 株式会社雄電社	株式会社アジカタ 遠藤商事株式会社 [2] クロスウィルメディカル株式会社 株式会社スミック [2] 轟産業株式会社 日本住環境株式会社 パール金属株式会社 株式会社マルタケ リコージャパン株式会社新潟支社 [3]	株式会社ニッテイライフ 株式会社リビングギャラリー 医療・福祉 株式会社クレメディコ [2] 社会福祉法人 長岡古老人福祉会 運輸業 マルソー株式会社 サービス業 株式会社南西楽園リゾート 新潟総合警備保障株式会社 株式会社新潟県厚生事業協同公社 日研トータルソーシング株式会社 日本テーマパーク開発株式会社 公務 魚沼市役所 [3] 燕市役所
製造業	小売業	金融業
有限会社池田シャープナー 株式会社A I RMAN 大野精工株式会社 久保誠電気興業株式会社 株式会社小森マシナリー 株式会社コロナ 株式会社SANKA 三協立山株式会社 株式会社スリーピークス技研 株式会社田中衡機工業所 株式会社新潟成型 [2] 新潟太陽誘電株式会社 [2] 日本精機株式会社 森井紙器工業株式会社 理研製鋼株式会社	アクシアルリテイリンググループ 株式会社オーシャンシステム [2] 株式会社コメリ 株式会社トップワイジャパン 新潟トヨタ自動車株式会社 株式会社新潟ダイハツモータース 株式会社ネクステージ	株式会社ゆうちょ銀行 株式会社第四北越銀行 株式会社大光銀行 三条信用金庫 長岡信用金庫 [2] 新発田信用金庫 協栄信用組合 岡三にいがた証券株式会社 株式会社かんぽ生命保険
情報通信業		
株式会社NS・コンピュータサービス ディーコム株式会社 株式会社ジェイマックスソフト 株式会社ビット・エイ 株式会社ファースト 株式会社ミロク情報サービス		

(8) 2024(令和6)年度 施設・設備の整備状況

- ① 1号館女子トイレ洋式化工事 費用：3,242,000 円
- ② 冷温水発生機溶液分析・調整 費用：506,000 円
- ③ 251 教室 0A フロア床修繕 費用：286,000 円
- ④ 消防設備改修工事 費用：198,000 円

3. 中越高等学校に関する事業

新型コロナウイルスによる学校の教育活動への影響もほぼなくなり、各学校行事等をコロナ禍前の状態で、それぞれ行うことができた。来年度(令和7年度)は、新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症の感染防止・感染拡大防止対策に配慮しつつ、学校行事を含む学校教育活動全般についてより充実した形で実施したい。

部活動の大会についても、ほぼ予定通り実施された。野球の夏の甲子園予選県大会においてはベスト4、秋の大会では惜しくも準優勝に甘んじた。一方、全国高等学校駅伝競走大会(都大路)の県大会においては、一昨年度の誤誘導事件のショックを見事に乗り越えて優勝し、全国大会出場を果たした。

(1) 教育研究について

本校は、「建学の精神」を、「進取の精神」と「文武一如」の校風と、「質実剛健」の校訓に具体化し、社会人準備期間にある青年として成長させるべく教育を行っている。教育の成果として現れる具体的なかたちとしては、勉強と部活両面における「質の高い自己実現」である。令和6年度は、「越高 ファイト! もう一步、その先へ!」をスクール・スローガンに、生徒一人一人がそれぞれの「力(パワー)」を高め、勉強にせよ、部活にせよ、今持っている力以上のさらにその先の、その上の力を発揮することを目指して前へ突き進みながら、全校一致結束して具体的に目に見える結果や実績を出すことに注力した。

課題としては、普通コースの指導、特に教科学力向上と特進コースのテコ入れであり、その解決に向けた対策は前年度までと同様に以下の取り組みを行い、成果も出ている。1~2年生については、①週末課題、②基礎学力や学習習慣の調査として全国的な規模で行われている「スタディサポート」と「基礎力診断テスト」の有効活用、③学習意欲の喚起・学習習慣や基礎学力の定着に向けた手だてをとっている。更に、1・2年生の学力不足生徒向け温習は改善しながら取り組んでいる。④すべての学年で進学者向け特別補習(通年放課後補習及び長期休業中の補習)、年数回の各種・各社による外部模擬試験受験、就職補習(3年生)、小論文・面接指導(3年生)などを行っている。

ア. 教員個々の力量アップと校務運営及び教員組織力の強化

① 教育の専門家としての力量を高める。

- a. 半ば形骸化していた従来の校内授業公開を令和4年度に復活させ、令和5年度以降は実施回数も増やし、また、より中身の伴ったものに改革・改善した。今年度も充実した形で行うことができた。
- b. 令和6年度は他校研修としては、特に本校の将来の生徒の海外研修旅行の実施を視野に、明訓高校と北越高校へ依頼、実施した。貴重な情報を得て、また知見も深まった。今後も、将来を見越して必要と思われる研修や、より先生方が求める研修を企画し、実行する必要がある。なお、校外研修については、終了後その都度職員研修等で報告会を行うことで情報共有し、本校の教育活動にも少しずつ活かすことができている。
- c. カリキュラム変更・観点別評価の方法を決める際に、教科の意見を求め、情報共有をした。また、令和4年度から観点別評価に変わったこともあり、令和5年度以降は観点別の評価をするために、授業展開をどうするか等、教科で話し合う姿が増えた。今年度も、教科間での相互理解を図りながら、よりよい評価の方法や形態を取り入れることができた。このような、取組は今後も継続して行い、授業改善等に取り組み、また、生徒の進路実現に寄与していきたい。

以上の取組は、今後さらに充実・拡充し、継続し、徹底したい。

② 校務運営の効率化と教育活動面の充実を両立させる。

- a. 教職員それぞれに一人一台配備されてあるPC端末とタブレットなどの機器を使って、教職

員間の情報共有及び分掌庶務や各種会議の効率化を図り、より円滑な校務運営を行っている。

- b. 上記タブレットや電子黒板等を用いた ICT 教育が、本格的に行われている。生徒の効率的かつ効果的な学習を促し、教員の授業力の向上に資するべく、日々改善に取り組んでいる。

イ. ペーパーレス化及び省エネ・節約の推進

- ① 上記 PC 端末とタブレットの活用により、ペーパーレス化を促進している。
- ② 令和 6 年度も、反故紙（裏紙）の使用を積極的に推奨した。結果として、コピー用紙の使用枚数は、前年比 101.0%と横ばいだったが、用紙その物の値上がりの影響により、支払い金額の前年比は 107.6%であった。また、節電、節エネ、節水についても常時呼び掛けてきたが、電気・ガス・水道いずれも代金の値上がりの影響を受けて、昨年度よりも支払金額は増加した（対前年比は以下の通り）。諸物価の高騰の影響は大きいと言わざるを得ない。ただし、中越高校はここ数年定員を超える生徒が入学し、全校生徒の総数及び教職員そのものの数が増えていること、また、コロナ禍明けで学校の各種教育活動や行事も活発になっていることなどを勘案すれば、これはやむを得ないことだとも考えている。

	支払金額の対前年比
電気	114.1%
ガス	168.4%
水道	129.1%

ウ. 生徒の様々な努力の成果を讃える「年間努力賞」の定着。

1 年生 190 人 (54.9%)、2 年生 185 人 (55.6%)、3 年生 115 人 (44.2%)

（参考：年間努力賞の基準―当該生徒が人格・生活態度で問題ないことが「前提条件」。その上で次の①～⑤のいずれかの条件を満たす生徒が表彰対象となる。①年間の学習成績優秀、②部活動の好成績、③英検・漢検・数検等の上級取得、④部活動に含まれない校外での顕著な活躍、⑤継続的なボランティア活動や人命救助等の実績）

エ. 学習習慣づけ・基本的生活習慣づけに向けた生徒指導の徹底

- ① 毎日の登下校指導（校長も毎朝生徒玄関で挨拶と声がけをしています。）
- * 登下校とも頭髪服装検査と挨拶の励行が基本指導。
 - * 登校指導ではこれに加えて、駐輪場での自転車の置き方の指導・二重の鍵かけ指導を生徒会と共同で実施した。
- ② LHR、学年集会等の様々な場面で、学習習慣づけ・基本的生活習慣づけの啓発。

オ. 学校カウンセラーの活用

学校カウンセラー（非常勤、週 2 回）を配置。生徒はもとより、父母や教職員も活用して、定着している。「いじめ防止対策推進法」に対応した校内組織「いじめ対策委員会」のメンバーにもなっている。

カ. 学力差のある生徒への学力向上対策

- ① 学力差の大きい生徒が一つのクラスに混在しているので、時間をかけて理解しやすい授業をすること、及び学習習慣や授業マナーの確立のために、夏休みの短縮等で授業時間を増やし、出張等の際可能な限り授業変更を行い、自習時間を無くすよう努めている。チャイムスタート・チャイムエンドをはじめとした授業マナーはかなり改善されている。
- ② 授業レベルに達しない学力が低い生徒向け補習の改善―英数国の 3 教科で実施。対象生徒は教科担当による指名制。着実に成果を上げている。

キ. キャリア教育・進路指導の充実

- ① キャリア教育ーワークシート形式の市販教材を活用した指導や、生徒の意識改革をねらった指導に、年間を通して計画的に取り組んだ。
- ② 大学進学指導ー推薦による進学が多く（特に普通コース）、学力不足が否めないのが、対策として推薦希望者全員に大学入学共通テスト受験を義務づけ、学習継続を促している。
特進コースは一般受験を勧めており、授業や補習もこれを前提にしている。
大学進学後も活躍できる学力を保证する為に、平常補習と年3回程度の模擬試験受験を普通コース生徒にも課している。
- ③ 就職指導ー就職試験問題への早期取り組み、三段階の面接指導など、キャリア教育とリンクさせながら、出口指導の改善に取り組んだ。

ク. 部活動の振興

- ① 「進取の精神」と「文武一如」、「質実剛健」をリードする部活動
部活動の生徒たちが、生き生きとした表情で活動し、勉強も部活動も学校行事も真剣に取り組む生徒たちが学校の雰囲気を作っている。
- ② 気持ちの良い挨拶、地域の清掃活動などを通して、幅広く地域の皆さんから応援してもらう学校になってきている。
- ③ 重点的な部活動を定めて後援会からの補助金予算配分の重点化や顧問配置・外部指導者増加配置を進めている。また、部活動で力のある生徒を、特別奨学生と一般奨学生として採用した。

ケ. 元気の PTA 活動

令和6年度についてはコロナ禍前の状態に戻って、各種行事等を行うことができた。具体的には、フォトツアー、卒業生用の花リボン作り、文化祭での食品提供・販売、広報誌発刊など従来のPTA行事を実施。行事のアイデアなどはほとんどの学校では係教師が行事の提案をしてPの役員がそれに乗るという形だが、中越高校では伝統としてPの役員がいろいろな提案をするという点でもユニークで元気のある活動が再開されつつある。実際、過去においてはこれらの取組が評価され、平成22年には文部科学大臣表彰を受けている。

コ. 広報活動の強化

年延べ4回（7月29、30日と9月16、28日）のオープンスクールを開催。参加者総数は、1,347名であった。

オープンスクール案内ポスター、中越高校の生徒の活動を伝える新聞（越高スポーツ）、部活動や大学進学に目覚ましい実績があると直ちに校舎に掲げる横断幕、懸垂幕を用意する等の広報活動を行なった。

本校の入試説明会を、塾講師向けと中学校教員向けにそれぞれ1回ずつ、保護者向けに2回（内1回は日曜日に）行った。昨年度に続き今年度も、それぞれの回においてかつてないほど大勢の参加者からお集まりいただき、例年会場として使う本校の大会議室が補助椅子を出しても座り切れず、「立ち見」が出る状況であった（130名以上参加）。

（2）生徒募集について

- 令和6年度の入学者数は、定員を上回る353名（定員+33名）であった。令和7年度の入学者数も、定員を上回り331名（定員+11名）であった。

詳しくは以下のとおり（数字は人数）。

	専願推薦		専願学力選抜		併願推薦		一般（2月）	
令和6年度	受験	158	受験	63	受験	1417	受験	227
	合格	158	合格	50	合格	1416	合格	145

	入学者	158	入学者	50	入学者	115	入学者	30
令和7年度	受験	147	受験	66	受験	1294	受験	213
	合格	147	合格	56	合格	1292	合格	171
	入学者	147	入学者	56	入学者	105	入学者	23

(専願推薦の内訳)

1 専願学力推薦 (受験者及び合格者) : 46名 内、特進0名

2 専願特活推薦 (受験者及び合格者) : 101名 内、特進0名

※専願学力選抜において特進コースは0名が受験。

3 併願推薦においては、内数で513名が特進合格となった。

4 一般2月入試においては、内数で9名が特進合格となった。

そして、令和7年度は令和5年度・6年度に引き続き、1年生の学級数が1つ増えて、普通コースが8学級(1学級増)、特進コースが1学級の計9学級となった(本校への入学者数:普通コース313名(令和6年度と同数)、特進コース18名(令和6年度より22名減(昨年度は40名))、計331名(令和6年度は353名))。※令和5年度は、本校への入学者数:普通コース325名、特進コース24名、計349名であった。

○ 公立高校が第1志望という受験生が多数派である現実が目下の所変えようがないが、難関大学を目指す長岡地区唯一の私学であり、大学等への進学状況や就職希望者の100%達成及び部活動の成果を内外に発信していく。

(3) 就職・進学について

令和6年度の卒業生は260名。大学・短大への進学者は160名(61.5%、昨年61.7%、一昨年56.5%)、専修・各種学校への進学者は64名(24.6%、昨年30.0%、一昨年30.4%)、就職者は27名(10.4%、昨年4.9%、一昨年10.0%)であった。

令和5年度と比較し、大学等進学者率はほぼ変わらない値であった。女子生徒の大学等進学率に関しては、令和5年度と比較し大幅に上昇し(59.5%、昨年47.8%、一昨年49.6%)、就職率は令和5年度よりも5ポイント程度の増加となった。長岡大学への入学者は8名(昨年1名、一昨年6名、一昨々年16名)であり昨年度に比較し増加した。

(4) 学校評価アンケート結果について

別紙に記載。

(5) 中越高等学校第二次中期計画(R6年度～R10年度)の1年目の進捗状況について

別紙に記載。

(6) 施設等の整備について

① グラウンド防球ネットのウインチ、昇降ワイヤー交換工事

錆びと摩耗で動かなくなったウインチと昇降用ワイヤーの交換工事を行った。

工事費 583,000円

② 野球場ブルペン補修

練習によりマウンドの傾斜がなくなったり、ホームベース付近の土が掘れて高低差が生じるなど、劣化が著しいブルペンの土入れ、整備を行った

工事費 1,100,000円

③ 生徒用机・椅子の入替事業

生徒用の机・椅子は古く傷んでいるものが多いこと、天板が小さく、タブレット端末を使用するのに不便であることから、入替えを行った(令和5～7年度の継続

事業の２年目）。

支払総額 5,856,400 円

④ 野球場のベンチ前、バックネット前整備

水が溜まりやすい形状になっていた野球場の１・３塁側ベンチ前とバックネット前を整形し、人工芝を敷設した。

工事費 990,000 円

⑤ 職員トイレピット内給水配管工事

職員トイレ下のピット内の給水配管に亀裂が入り、漏水が続いていたこと、管の腐食が進んでいたことから、管の取替工事を行った。

工事費 627,000 円

⑥ 体育館高天井用照明器具取替工事

体育館の照明は水銀灯を使用していたこと、昇降機が故障したランプもあったことから、ＬＥＤ照明器具への取替工事を行った。

工事費 7,040,000 円

⑦ 体育館間仕切りネット修繕工事

上記⑥の工事期間に合わせて、間仕切ネットの修繕を行った。

工事費 770,000 円

⑧ 令和６年度教室・廊下等の照明ＬＥＤ化事業

校内教室・廊下等の照明を蛍光灯からＬＥＤに取り替える工事を行った。

工事費 1,496,000 円

⑨ 体育館のステージのどん帳修繕工事

どん帳の上げ下げに使用するワイヤー２本のうち１本が切れていたため、切れたワイヤーを撤去し、新しいワイヤーを取り付けた。

工事費 715,000 円

⑩ 図書室の自習室化に伴う机の入替事業

図書室の大型の机と老朽化した１人掛けの机を１人ずつ仕切られた机に入れ替えた。

支払総額 2,860,000 円

以上